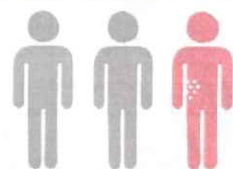


## 帯 帯状疱疹ワクチンの助成金について

帯状疱疹は、子どもの時にかかった水ぼうそうの原因ウイルスが神経の中に潜んでいて、何年か経ってから何かのきっかけで再び表に現れてくると起こるものです。疲れたり、体の抵抗力が落ちたりしているときに発症します。帯状疱疹にかかると痛みと小さな水ぶくれが現れます。皮膚の症状や痛みは普通そのうちに治りますが、皮膚の症状が消えた後にも痛みが残る場合があります。これを帯状疱疹後神経痛といいます。

コロナやインフルエンザやら、ワクチンだらけかもしれませんが、この帯状疱疹にもワクチンが存在します。

不活化ワクチン（販売名：シングリックス）十分な免疫効果を得るために、標準として2か月間隔で2回接種する必要があります。全額自己負担で受けた場合、1回あたり20,000円～30,000円程度かかりますが、1回の接種につき、10,000円を助成。（前橋、高崎は50歳以上、伊勢崎、玉村は65歳以上、1人2回まで）。ぜひ助成金を活用しワクチン接種をご検討ください。



80歳までに  
約**3人**に**1人**が発症



## 5 点検整備の徹底を

5月19日午前9時ごろ、栃木県矢板市を走る東北自動車道下り線で、トラックが燃える事故が発生しました。警察によると、運転中に車内に煙が充満したため路肩に停止したところ、トラックの前方から火が出たということです。このように、車両火災のニュースが後を絶ちません。

国土交通省は、自動車製作者等から報告のあった事故・火災情報をホームページにて公表しており、これによると、令和3年中には1,070件の火災が発生しています。このうち、原因が特定できたものの多くは、「点検・整備」に起因するものももっとも多く、次いで「外部要因」、「社外品・後付装置」によるものが多くなっています。また、火災情報を車種別にみると「貨物車」がもっとも多く、次いで「乗用車」となっています。車両火災は、日頃の点検・整備等によって防げるものも少なくありません。日常点検をはじめ、定期点検は確実に実施してください。とくに走行距離の長い車や年式の古い車は念入りに整備しておきましょう。

## 東 子どもにまさかは通用しない

京都足立区の路上で、道路を横断していた7歳の児童がトラックにはねられ、死亡する事故が発生しました。警察によると、トラックの運転者は「まさか子どもが横断してくるとは思わなかった」と話しているそうです。警察庁が春の全国交通安全運動に合わせて公表した事故分析によると、歩行中の児童にもっとも多い違反が「飛出し」であり、また、もっとも多く事故が発生している時間帯が「16～17時台」です。子どもの視野は大人の3分の2ほどしかないため、左右から来る車が子どもには見えていないということがよくあります。子どもに「まさか」は通用しないと考え、学校や公園の周辺はもちろん、集合住宅の近くなど、子どもがいそうな場所では、制限速度を厳守するとともに、子どもを見かけた際にはアクセルからブレーキに足を踏みかえたり、減速するなどして、飛出しを警戒しながら走行してください。